

教育長紹介



千葉県

とみづか まさこ
富塚 昌子

「県と市町村の連携や、学校と家庭、地域のつながりを大切にし、千葉県の教育・文化、スポーツの発展に向けて、誠心誠意、全力で取り組んでいきたい。」と抱負を語る。

また、「子供たちが『千葉に生まれ、この学校で、この先生に出会えてよかった。自分の子供もここで育てたい。』と思ってもらえるよう、教育委員会や地域の方々の力を学校に集結し、千葉の教育の力を最大限高めていくことが使命であり、第3期教育振興基本計画に基づく各種施策の一層の推進を図りたい。」と意欲を示す。

昭和60年千葉県庁に入庁。千葉の魅力担当部長、環境生活部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(千葉県教育庁企画管理部教育総務課長 中西 健)



富山県

おぎの よしこ
荻布 佳子

「子どもたちが安心して生き生きと学び、成長できる環境づくりに組織の力を最大限に生かして取り組む」と抱負を語る。

「教育環境のデジタル化を推進し、教育の充実につなげたい。また、国に先行した35人学級の小学校全学年での導入や教員の働き方改革も着実に進めたい。」と意欲を示す。

昭和61年富山県庁に入庁。厚生部児童青年家庭課長、知事政策局課長、生活環境文化部次長・高志の国文学館副館長、商工労働部次長、議会事務局長などを歴任。本年4月に教育長（女性初の教育長）に就任。57歳。

(富山県教育委員会教育企画課長 松井 邦弘)



岐阜県

ほり たか お
堀 貴雄

「身体と心の両面から、一人残らず子どもたちの命を守り、そして夢を育てたい」と抱負を語る。

その上で、「約20年間の教員生活で培った経験を判断の基準として、対話やコミュニケーションを大切にした教育政策を推進する。また、コロナ禍での対応も踏まえ、『現状維持は後退である』という意識で、社会の変革に適応した学校づくりを進めたい」と強い意欲を示す。

昭和60年に岐阜県立高等学校教諭となり、県立不破高等学校長、県教育委員会事務局教育次長を経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(岐阜県教育委員会教育総務課長 松本 順志)



大阪府

はしもと まさし
橋本 正司

「大阪のすべての子どもたちが様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を自ら切り拓いていけるよう、大阪の教育力の向上に向け、市町村教育委員会や学校現場、私立学校などの関係者と密接に連携し、ともに知恵を出しながら、一丸となって子どもたちの学びや成長をしっかり支えたい」と抱負を語る。

「魅力ある学校づくりの推進をはじめ、一人一台端末などICTを活用し、子どもたち一人ひとりの状況に応じた学びの充実、支援が必要な児童生徒の教育環境の整備などに全力で取り組んでいく」と意欲を示す。

昭和59年大阪府庁に入庁。財務部次長、教育次長、私学監、危機管理監などを経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(大阪府教育庁教育総務企画課長 仲谷 元伸)



鳥取県

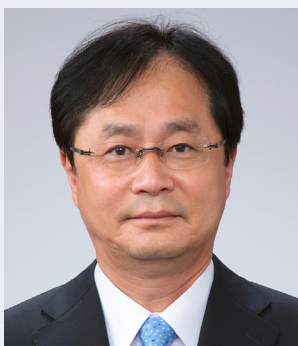
あしば ひでき
足羽 英樹

「変化が激しい予測困難な時代にあって、自ら課題を見つけ、学び、探究し、考え、判断して行動することで、よりよい社会づくりに貢献できる力、すなわち『生きる力』を育成することが教育の責務である。『人』との関わりの中で、子どもたちが自分の生き方を見つけ、『ふるさと鳥取県』に誇りと希望を持った人生が送れるよう取り組んでいきたい。」と抱負を語る。

また、「コロナ禍であっても感染防止対策の徹底を図りながら、『学びを止めない』を合言葉に、子どもたちの健やかな学びを確保していきたい。」と強い思いを語る。

昭和61年、鳥取県立高等学校教員として採用。県立倉吉西高等学校長、参事監兼高等学校課長、参事監兼教育人材開発課長、教育次長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。57歳。

(鳥取県教育委員会事務局教育総務課参事 小谷 智子)



山口県

しげよし たけし
繁吉 健志

「未来の山口を担う子どもたちが、たくましく生き抜いていくことができるよう、本県教育の特色を生かした、山口県らしい教育を推進していきたい」と抱負を語る。

また、「全国に先駆けて全公立学校にコミュニティ・スクールを導入していることや県立学校への1人1台タブレット端末の整備が完了している環境を最大限に生かし、本県の誇る「地域教育力日本一」の取組をさらに充実させ、各教職員の力を結集して、子どもたちの可能性を広げる学校づくりを進めたい」と強い意欲を示す。

昭和60年に山口県庁に入庁。教育政策課長、土木建築部審議監、総務部次長、教育次長、副教育長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳

(山口県教育庁教育政策課長 田中 純)



福岡県

よしだ のりとし
吉田 法稔

「子どもが未来社会の創り手となるために、学力・体力の向上、豊かな心の育成、学ぶ意欲やチャレンジ精神など子どもの成長の原動力となる人格的資質を育てる『鍛ほめ福岡メソッド』の展開などの施策を引き続き推進していく。さらに、施策の実施において新たな観点や現状に合わせた手法を積極的に取り入れ、従来の取組をより一層発展させる。また、コロナ禍で芽生えたICT活用などの「新しい教育様式」の芽を大きく育てていきたい」と意欲を示す。

昭和57年福岡県入庁。教育振興部長、教育企画部長、副教育長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。61歳。

(福岡県教育庁総務企画課長 池松 峰男)



長崎県

ひらた しゅうぞう
平田 修三

これまでの行政経験から、「大きな目的に向かって進むときには『旗』を掲げることが肝要だ。明確なビジョンを示すことで人やものが集まり、やがて大きな成果を生み出す。」と信念を語る。

Society5.0の実現など、社会の在り方が大きく変化する中、子どもたちの未来を切り拓く力を育てるために、「まずは我々が変化や失敗を恐れず、挑戦し続けていくことが大切だ。」と意欲を示す。

昭和60年長崎県庁に入庁。水産部次長、産業労働部長、総務部長、統轄監などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(長崎県教育庁総務課長 桑宮 直彦)



仙台市

ふくだ ひろゆき
福田 洋之

「子どもたちが人生を拓く基盤となる、豊かな心・確かな学力・健やかな体をバランスよく育成し、いじめ防止や不登校対策など、子どもたち一人ひとりに丁寧に向き合い、教職員が力を十分発揮できる環境づくりに注力したい」と抱負を語る。

「教育は未来を切り拓く人を育てるという大きな役割を担っている。現場の状況をつぶさに把握し、多くの声を聞き、常に未来志向で取り組みたい」と意欲を示す。

昭和60年仙台市に採用。教育局総務企画部長、子供未来局長、財政局長などを経て、本年4月に教育長に就任。59歳。

(仙台市教育委員会事務局総務課長 柴田 由紀)



新潟市

いざき のりゆき
井崎 規之

「教育行政は、コロナ禍やICT技術の進歩など社会の変化に適確に対応し、一人ひとりが社会の一員として豊かな人生を歩んでいくことができるよう、これまで以上に幅広い視点で取り組んでいく必要がある」と意欲を示す。

また、「これまで新潟市が取り組んできた『学・社・民』の融合による教育を実践し、人づくり、地域づくり、学校づくりを通して、学校教育、社会教育の充実を図り、新潟市教育ビジョンが目指す教育を実現していきたい」と抱負を語る。昭和61年、新潟市に採用。政策企画部政策監、地域・魅力創造部長、総務部長等を歴任し、本年4月に教育長に就任。58歳。

(新潟市教育委員会事務局教育総務課長 渡辺 和則)



京都市

いなだ しんご
稲田 新吾

「1人1台のPC端末活用は、本市教育理念の『一人一人の子どもを徹底的に大切に教育』のより一層の具現化と、子どもたちの学びと人権の保障に繋がる」と、その最大限の活用に向け意気込む。さらに「個に応じた学びの推進はもとより、それが学びの孤立化に繋がらないよう、京都ならではの伝統文化体験（茶道・華道等）・自然体験活動等の体験的・協動的な学びと、ICT活用のベストミックスを目指す。そして、ウイズコロナ・ポストコロナ時代においても、明治維新时期に京都の町衆が教育に未来を託した情熱を受継ぎ、本市の市民力・地域力・文化力を生かしたこれからの150年に繋がる、令和の番組小学校を創造する」と決意を語る。

昭和62年京都市教育委員会事務局に採用。同事務局総務部長、教育次長、教育政策監などを経て、本年4月に教育長に就任。58歳。

(京都市教育委員会事務局総務部総務課長 福知 賢治)



堺市

ひわたし まどか
日渡 円

「『進取』と『無謬』という言葉を大切にしながら、変化することが常態であるという意識のもと、これまでの慣例にとらわれることなく、子どもたちのため、学校のため、ひいては社会のために何ができるのかを考えながら行動することが大事である。学校園が持てる力を最大限に発揮できるように、家庭・地域と協働しながら、新たな時代を担う子どもたちの育成に尽力したい」と抱負を述べる。

昭和54年に宮崎市公立学校職員として採用。宮崎県五ヶ瀬町教育長、兵庫教育大学大学院教授、大津市教育委員、大津市教育長、兵庫教育大学学長特別補佐などを歴任し、本年4月に教育長に就任。64歳。

(堺市教育委員会事務局総務部教育政策課長 永木 里恵)